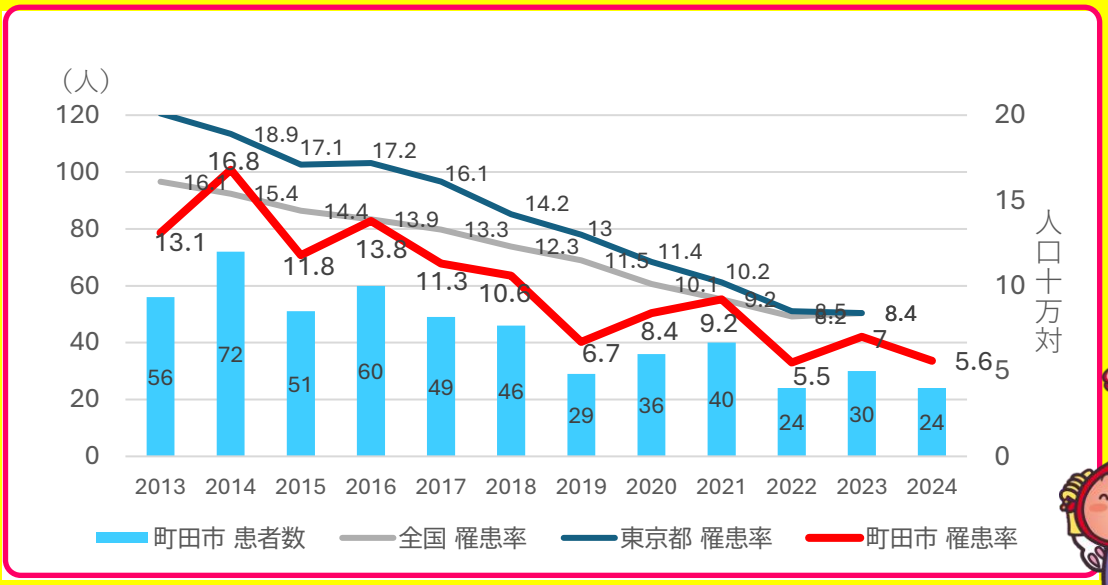
まちだの結核

発行：2025年3月
担当：町田市保健所
保健予防課感染症対策係
結核担当

過去の病気のイメージがあるかもしれませんが、現在の日本でも
毎年1万人以上が新たに結核と診断をされています。

新規登録患者数と罹患率の推移

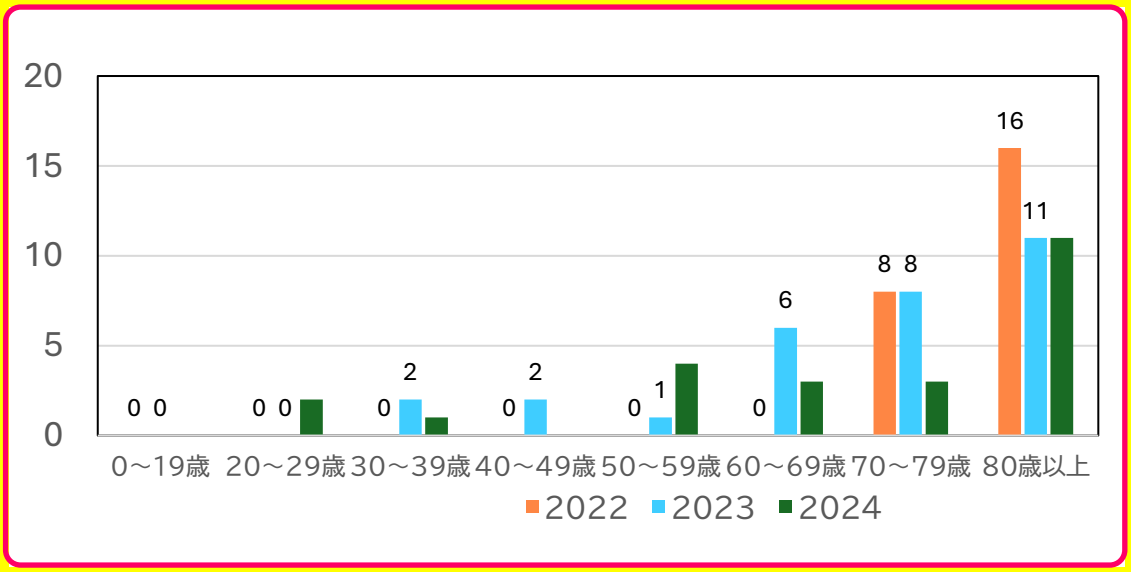
結核の新規登録患者・罹患率ともに年々減少傾向にあります。
2021年に日本は罹患率10.0以下を達成し、結核の低蔓延国となりました。町田市は全国・東京都と比較して低い水準にありますが、それでも年間数十名の新規患者が発生しています。



公益財団法人　結核予防会
シールぼうや

年齢階層別登録者数

町田市では70歳代以上の高齢者の結核が大半を占めています。
これは全国や東京都も同じ傾向ですが、町田市では特に高齢者が高い割合です。
高齢者は結核の典型的な症状が表れにくいのが特徴です。



結核とは？

感染と発病

主に結核菌によって引き起こされる感染症。結核菌は空気感染によって感染する。多くの場合は結核菌が体に入っても、体の抵抗力により追い出される。結核菌が追い出されず体内に残っている状態を**「感染」**という。感染してもすべての人が発病するわけではなく、発病していない段階では周りの人へ感染させることはない。感染後、結核菌が体内で活動し始め病巣ができ、咳や痰、発熱などの症状が現れると**「発病」**という。結核が蔓延していた時代に感染を受け、病気や加齢で免疫力が低下すると、休止していた菌が活動を再開し発病することもある。

症　状

2週間以上続く咳、痰、発熱、血痰、胸痛、全身のだるさ、寝汗、体重減少、食欲不振　など。高齢になるほど典型的な症状で表れにくくなる。

診　断

胸部エックス線検査、CT、痰の検査などで発病を確認する。

治　療

6か月から9か月間、複数の結核薬を内服する。周りへうつす恐れがある場合は専門の医療機関で入院治療を行う。周囲への感染性がない場合は外来での治療を行う。

治療を始めると症状はよくなっていくが、途中で服薬をやめてしまうと結核菌が薬への耐性をつけ、治すことが非常に困難になってしまう。

最後まで治療を続ける必要がある。

早期発見・早期治療が大事！

結核は、早期に発見できれば、入院せずに外来治療をすることが可能です。一方で病気が進行してしまうと、命に関わることもあります。発病後、周りの方に感染させた恐れがある場合は、利用した施設等の調査や、接触者健診が必要となる可能性もあります。

患者さん本人、周囲の方のためにも、早期発見・早期治療が重要です。そのためにも

年1回は定期健康診断（胸部エックス線検査）を受けるようにしましょう！

学校、社会福祉施設、介護老人保健施設、医療機関等は、結核の定期健康診断の実施と報告が義務付けられています。

情報コーナー

参考になるホームページのURL・二次元コードを掲載します。

https://jata.or.jp/
公益財団法人結核予防会
結核研究所

https://www.niph.go.jp/h-crisis/wpcontent/uploads/2019/07/koureisyanotebiki2017.pdf
東京都作成
「高齢者施設における結核対策の手引」

https://www.hokeniryo.metro.tokyo.lg.jp/kansen/kekkaku/index.html
東京都保健医療局
結核情報・対策（多言語動画・リーフレット等）

https://jata.or.jp/dl/pdf/outline/support/Care_worker_color.pdf
結核予防会作成
「介護職のあなたにこれだけは知ってほしい“結核のこと”」